

広島県中小企業団体中央会 2021年9月分情報連絡一覧表

※本調査は10月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する10月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

食料品

●中国醤油醸造協同組合

9月の出荷量は前月比15.3%減少、前年同月比1.2%減少となり、売上高は前月比13.7%減少、前年同月比1.6%減少となった。

広島県東部菓子商工業協同組合

コロナ禍が終息すれば、成績が出てくるだろう。

原材料及び資材、人件費をはじめ経費が高くなり、収益を圧迫している。

多くの人が職を失うなど、所得の減少により個人消費が下がっている。

ワクチン接種が進めば、経済の回復が予想される。

(繊維・同製品)

●繊維工業

広島アパテック協同組合

全体的にはメーカーからの注文はまちまちである。

見通しは依然としてよくない。緊急事態宣言が解かれ今後の状況がどうなるかが一番の関心事である。

本来の主力製品以外のものでも注文によっては対応している。

技能実習生の中で、特に中国は帰国要望が強い。

(一財) 広島県織物工業会

緊急事態宣言が9月末で解除され、新政権が誕生し、衆議院選挙も行われるという状況であるが、景気についてはなかなか浮上しない。いつ回復するか先が見通せず、辛抱の時期である。

今後 第6波が予測されており、経済活動においても慎重な動きとなっていることから、コロナ以前の状況にもどるのは、難しいだろう。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

着工が増えて木材の入荷も増えてきたが、今後は、合板が不足して工事の遅れが出る可能性がある。

広島県木材協同組合連合会

<全国>

- 令和3年8月の全国新設住宅着工戸数は74,303戸で前年同月比7.5%増加
- 季節調整済年率換算値では855千戸で前月比7.7%減少
- 利用関係別では、持家は25,100戸で前年同月比14.5%増加、貸家は28,733戸で同3.8%増加
- 分譲住宅は19,936戸で5.3%増加、木造住宅は44,587戸で16.1%増加
- 全体の住宅着工動向は、前年同月比で6カ月連続の増加となり、2020年以降では高水準が続き回復基調にある一方、部材高騰等で経営が厳しさを増す地域工務店等もあり、今後の動向を注視していく必要がある。

<広島>

- 8月の着工戸数は1,560戸で対前年同月比25.5%増加
- 内訳としては、持家は505戸で前年同月比15.8%増加、貸家は578戸で同11.4%増加、分譲は477戸で同66.8%増加と、県全体の住宅着工動向は5カ月連続の増加となった。
- 地域別では福山市が269戸で前年同月比43.9%増加、東広島市は209戸で同237.1%増加、廿日市市は155戸で同287.5%増加の一方、広島市は613戸で同3.9%減少、呉市は39戸で同58.1%減少であった。ウッドショックの影響で木材の品薄と価格高騰が依然続いているが、国産材への代替を含めほぼ調達出来る状況となっておりプレカットも堅調な稼働が続いている。住宅ローン減税の駆け込み需要で、11月以降の着工減少や反動による需要減・価格低下を危惧する企業もあり、需給見通しが不透明な中、引き続き需給動向を注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

アメリカ・カナダ産の乾燥正角・小割製品や、ヨーロッパ産のレッドウッド平角などが順次入荷しており、ウッドショックによる製品不足は解消に向かいつつある。アメリカ・カナダ産の現地挽き乾燥材製品の提供案内が、これまで無かった小規模プレカット工場へも出始めてきている。現在不足感が出ているのは合板と管柱・土台のみとなってきた。

9月の県内プレカット工場では、引き続き柱・土台・合板の仕入れに苦労されており、特に合板が足りず、加工を減らしており、来月以降も続くと思われる。10月も9月と同じペースで仕事がある。一方で、合板不足が続いており、プレカット工場はぎりぎりでの加工が続く。

(印刷)

●出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

緊急事態宣言が全国で解除され、ここから徐々に普段の日常に戻って行けばと切に願う。

業界では、脱印刷を加速させ、その印刷技術を現場に即したDX開発や電気自動車の電池の部分を含む部品作りに活かす企業もあるようだ。

そのような中、中小企業はどのような業態変革をしていくべきだろうか。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

コロナ感染拡大は縮小してきており、これから経済拡大策が新政府に求められるところであるが、全世界で天然ガス、石炭不足によりエネルギーが高騰しつつあり、かつ、電力不足が欧州、中国、インドなどで顕在化しつつある。

また、原材料も石油価格高騰により上昇し続けており、半導体不足による減産もあり、売上が低迷するなか、運賃上昇も合わさり、かつてない危機感を覚えている。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

コロナ禍で半導体や自動車部品が不足している。自動車の減産により売上は大幅に減少の傾向にある。

生産設備の稼働は、断続的で生産効率は悪くなっている。

また、原材料の値上げにより、採算性も悪くなっている。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況(24工場)

R3年9月 2,714m³ (対前年比14.09%減少)

R3年8月 2,186m³

R2年9月 3,159m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

瀬鉄鋼協同組合連合会

電気代の燃料調整費単価が長期間マイナスだったものが、来月からプラスに転じる。ガソリン価格も高騰し、LNGや石炭も高騰しているので、いつまで、どの程度上がるか心配である。また、コークスも値上げが大きい。近年、取扱い量は減ってはいるが、それでも利用されているところがあるので、こちらも心配である。

緊急事態宣言中は大手企業がテレワーク業務も多く、印鑑が貰えず、受注が停まり、遂に緊急事態宣言が明けると大量の受注が発生するなど、対応に苦慮している事業所もある。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比10%増加、前年同月比15%減少となった。

月次、年次ともに出荷時期の変動が増減要因で、平調推移といえる。

スポット受注も増加要因である。

受注については夏期休暇の影響があり内外需ともに前月比やや減少したが、順調に推移している。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合(電気機械器具)

今月の売上は前月比3%増加、前年同月比10%減少となった。

半導体生産の回復、工作機械市場等の回復が売上増加の要因だが、やや足踏み状態。年次での減少は出荷時期によるものである。

中国、韓国、台湾等の巣ごもり需要の一巡でその他は一服感あり。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具(自動車)

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客(マツダ)の業況(生産台数)に比例している。

直近ではアジア地区のコロナの影響と、半導体の供給不振が10月までは続きそうだが、11月以降はフル生産を見込んでおり、人的資源も含めた準備をしている。

・9月の国内自動車販売台数は全需が318千台、前年同月比32.2%減少と3ヶ月連続での前年割れ。登録車も前年同月比30.0%減少と7ヶ月振りに前年割れ、軽自動車は同35.9%減少と3ヶ月連続で前年割れ、マツダ車は同50.0%減少と4ヶ月連続で前年割れとなった。

・アメリカの8月度の全需は1,095千台で、前年同月比17.2%減少と4ヶ月振りに前年割れ。マツダ車は前年同月比

4.5%増加と、4ヶ月連続して前年超えとなった。

・欧州の8月の全需は910千台で、前年同月比14.1%減少と2ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は同6.8%増加と2ヶ月振りの前年超えとなった。

・中国の8月の全需は2,054千台で、前年同月比6.0%減少と5ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は同27.7%減少と5ヶ月連続で前年割れとなった。

・上記各地域の全需が落ち込む中、マツダ車の8月の海外販売合計は北米と欧州が頑張ったが、その他地域の落ち込みをカバーできず83千台、前年同月比4.4%減少で6ヶ月振りの前年割れとなった。

・マツダ車の8月の輸出台数は、前年比0.3%減少と2ヶ月連続で前年割れとなった。

・マツダ車の8月の国内生産台数は、前年同月比60.1%減少と2ヶ月連続で前年割れとなった。

●輸送用機械器具（造船）

中国地区造船協議会

県内、2500総トン以上の令和3年8月の船舶建造許可実績は4隻、87,050総トンであった。（前月3隻、323,800総トン。前年同月4隻、94,400総トン。）

なお、内訳は国内船が2隻で貨物船1隻、油槽船1隻、輸出船が2隻で貨物船1隻、油槽船1隻であった。

（一社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化は無い。

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

雑貨においては、生活必需品、医薬品関連を中心に、単筆もり需要は堅調に推移。

資材においては、製造業、民間工事の復調を背景に好転。全般的に原材料相場の上昇が見られる。

食品においては、特に外食向けについて資金繰り悪化が顕著であるが、公的助成金による補填効果大きい。

繊維においては、業容縮小の動きが散見され始めている。

協同組合福山卸センター

首相が変わり、新経済政策の実施に期待したい。また、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除され、経済活動が徐々に回復することが期待される。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

ウッドショックの影響が続き住宅価格が上昇し、その影響で設備工事費の圧縮が懸念される。

世界各国のコロナ感染拡大影響で、電材業界に対する海外でのメーカー生産が滞っており商品不足の事態が発生している。

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

海外ロックダウンのため、商品の生産遅れの影響あり。

入荷遅れが生じているが、解消すれば上昇の余地あり。

●卸売業（畳・敷物）

広島県畳製品商業協同組合

びんご畳表では、需要増に向けての営業活動に力を注いでいる状況。取り巻く環境も変わり、新築住宅やリフォーム住宅の需要が増加傾向にある。

これを機に、需要増・受注・販路拡大へと進んでいきたい。

一方、中国産畳表では相場は前年並みでの取引内容であり、主産地の寧波市では洪水被害もあったが、その被害は限定的で総じて前年並みで推移している。

（小売業）

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

中央市場9月の取扱高は水産部が引き続き前年割れ、青果部が前年より微増で推移した。特に水産部は飲食店の全面休業や緊急事態宣言による需要蒸発が影響し、青果部は入荷減少による相場高が影響した。

養殖魚並びに冷凍輸入品の一部が値上りし、小売部門において販促の足かせになっている。

食品小売業者は緊急事態宣言による消費意欲減退、飲食業の休業、巣ごもり需要も無く、売り上げ回復の見通しは立っていない。

協同組合三次ショッピングセンター

緊急事態宣言の延長で飲食店1店が1ヵ月以上休業、一部の店舗は営業時間短縮を行い、組合は販促イベントの自粛によって客数や売上の減少といった影響が出た。

地域の新型コロナウイルス感染がおさまってきたので一時的に売上回復する見込みである。

人口減少と高齢化、組合施設の老朽化などさまざまな問題に直面している。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比23%減少となった。

商品別では、薄型テレビ同29%減少、DVD同38%減少、冷蔵庫同16%減少、洗濯機同1%減少、IHクッキングヒーター同8%増加、エコキュート同13%増加、エアコン同36%減少、炊飯器同34%減少、空気清浄機同52%減少となった。

8月に引き続き、緊急事態宣言延長で活動制限され、販売に苦戦している。また、全般的に半導体等の部品不足で商品供給に難あり。

洗濯機、エアコンなどの一部の高級機種に品不足傾向が見られる。

依然、コロナ禍・天候不順で販売先行き不透明感が拭えない。ただし、10月より緊急事態宣言解除で経済の活発化を期待する。

●その他の小売業（燃料）

広島県石油商業組合

8月末からの緊急事態宣言及びその延長により、販売量が激減。8月に続く販売不振のうえに、原油価格高騰による資金繰り難が続いている模様である。ライフラインともいえる石油製品の安定供給の為に石油販売業者が苦慮している。

（商店街）

●商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

緊急事態宣言の延長に伴い、引き続き飲食店を中心に多くの店で休業の継続や時短営業を強いられている。宣言解除後の各店の対応については、これから発表される予定の広島県や呉市からの方針や対応策待ちといったところである。

（サービス業）

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比18.3%増加、前年比1.7%減少。

車検場収入は、前月比15.4%増加、前年比2.5%減少。

重量税・登録印紙の売上は、前月比0.5%減少、前年比1.4%減少。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

オリンピック特需もあり若干稼働したが、コロナ前と比較すると減少傾向である。

未だ例年の水準には程遠い。業界全体的に下降の見通しである。

●警備業

広島県警備業協同組合

人手不足が続いている。

●情報サービス

（一社）広島県情報産業協会

組合員によっては、半導体、樹脂不足の影響で3月に発注した機器がいまだに納期末回答になっており、ハードウェアが無いため納品できない事態が少し発生している。今年度売上にできない案件が増えるのではと危惧している。

（建設業）

●工事業

福山地区電気工事業協同組合

9月分の工事受付件数は前月比8.1%減少、前年同月比11.9%増加となった。

上半期の累計は、前年度と比較してほぼ同様の数字となっている。

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、9月度は前月比58.7%増加、前年同月比11.5%減少、前年累計比も37.1%減少となった。前年対比の下落幅が、前月より5%改善されたが、引き続き厳しい状況が続く。

今年度末物件の見積り提出機会は増えている様だが、年内は余り上向きの気配が見えない。年度当初の大きな落ち込みを取り返すのは難しい状況である。

（運輸業）

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

9月は、緊急事態宣言延長により、飲食関連の荷動きが悪かった。自動車関連についても、引き続き半導体不足により減産したため悪かったが、稼働日が少なかった8月より売上は増加した。OPECプラスの原油減産維持やアメリカのハリケーン被害により製油所が停止したため軽油価格が上昇し、収益は悪化した。

軽油価格の上昇は、ただでさえ低い運送事業者の収益を圧迫しており、さらなる原油価格の高騰による収益悪化が懸念される。

松永地区トラック事業協同組合

9月の売上高は、前月比、前年同月比ともに多少であるが増加となった。昨年は、関東、中部、関西方面からの返路貨物の運賃が、コロナの影響でかなり安価となっていたが、現在は回復している。貨物の荷動きについても、緊急事態宣言中ではあるが、大きな影響はない。収益状況が悪化しているのは、軽油の価格が高止まりしているこ

とによる。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高年齢化が進み、若年船員の育成が進まないなど、船員不足の状況が続いている。

また、運賃・用船料の改善が依然として見られない状況である。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比は地価調査評価作業報酬、固定評価時点修正作業報酬の入金等で売上高、収益状況、資金繰りが好転している。

前年同月比は不変である。

8月末から国交省の地価公示評価作業が始まっているが、その他の一般評価件数については特に変化はない。

依然として業者建売用地素地の供給が少ない状況が続いている。